

# Enjoy Climbing

連載①

事故と復活

これよりしばらくの間、連載を仰せつかりました佐藤裕介と申します。まとまりのない自分の登山と旅の羅列となりそうですが、どうぞよろしくお願い致します。

私の事は知らない方も多いと思いますので、自己紹介から始めさせていただきます。

1979年生まれ。いつの間にか42歳になりました。私の登山は高校山岳部からとなります。大学の山岳部がショボ過ぎた為、地元で最も活発だった社会人山岳会「めっこ山岳会」に入れてもらい私の本格的な登山人生がスタートしました。そこからは、私の人生の中心は登山とクライミングであり続けております。大学卒業後、地元山梨に戻り10年間、サラリーマンをしながら山を続けておりましたが、現在は山岳ガイドとして生計を立てております。卒業後、就職したのは従業員もごく少ない小さな会社だったので、社会人としてスタートしてからしばらくは、長期休暇は年末年始の休暇に加え有休を少し追加するのが精一杯。その期間で冬山登山や台湾の沢へ行っていました。3年ほどそれで我慢していましたが、やはりアルパイン系の海外遠征の欲求は抑えられませんでした。それまで勤めていた会社では無理だろうと会社を辞し本格的な遠征に臨もうと思ったのですが、年に一回くらいなら良いだろうと会社の理解を得て辞めることなく、それから毎年アラスカ、カラコルム、インドヒマラヤなどに遠征を繰り返しておりました。私自身の振り返りとしても丁度良い機会なので、これまで印象に残った海外遠征&国内山行一覧を書きました。これからの連載では以下の登山の話になると思います。

## ●海外遠征&国内山行一覧【海外遠征】

- 2000年 南米アンデス山脈を南下しつつアルパインクライミング&旅(単独)10ヶ月間
- 2002年 ヨセミテ エルキャブ、ハーフトーム、ワシントンコラム(全て単独)
- 2005年 台湾 金崙溪 初廻行
- 2006年 台湾 老西溪 初廻行(3月)  
台湾 豊坪溪(11月 中間部まで)
- 2007年 アラスカ ルース氷河にて3本の新ルート登攀
- 2008年 アラスカ・ベアーツウスの新ルート登攀  
アラスカ・デナリでの継続登攀  
インドヒマラヤ カランカ北壁ダイレクト(6931m) 初登

- 2009年 パキスタン スパンティーク(7027m) ゴールデンピラー完登 2100m
- 2010年 パキスタン ラトック1峰 北壁 5900mまで
- 2011年 パキスタン ウルタル2峰 南東ピラー 6500mまで
- 2012年 ハワイ カウアイ島 waialea stream 初廻行
- 2013年 台湾 恰堪溪 初廻行  
レユニオン島 TOUR DE FER 初廻行  
ザイオン ムーンライトバットレス 5.12 d 12 P 360m チームオンサイト  
ヨセミテ エルキャブ フリーライダー 5.12 d 35 P 1000m 完登
- 2014年 パタゴニア テイト・カラスコ西壁 新ルート開拓
- 2015年 パキスタン ウルタル2峰 南東ピラー敗退
- 2016年 エルキャブ ノーズオールフリー敗退
- 2017年 パタゴニア エルモチョ バリエーション開拓初登  
パキスタン BEATRICE(5800m) 東壁 The Excellent Adventure フリー化 600m 5.13 a  
エルキャブ ノーズオールフリー完登? (28 P ~ 30 P 目 5.10 d の間はツルベによるトップ&フォローでのクライミング)
- 2018年 ボルネオ島 キナバル山 パナタラン川 ローズガリー敗退(4月)  
インドヒマラヤ セロ・キシウトワール(6200m) 北東壁 初登
- 2019年 パタゴニア フィッツロイトラバース敗退

以上の遠征について時系列的に順序だててまとめるのは大変そうなので気が向くままに連載できればと思っています。たまには国内の登山やクライミングについても書きたいと思っています。国内登山歴リストは次回書かせて頂きます。

今回は一番最近の海外遠征であるパタゴニア遠征(2019年1~2月)から私自身の復活についてです。

## パタゴニア フィッツロイトラバース敗退

2019年2月 メンバー横山勝丘、佐藤裕介

パタゴニアでやろうと思っていたのは、ジャンボが長年トライし続けていたフィッツロイトラバース。アウトドアメーカー「パタゴニア」のロゴはフィッツロイ山群なのだがその8つのピークを継続しながら全て一回のトリップで登るとというのがフィッツロイトラバースである。数年前にフィッツロイトラバースは初めてトレースされた。同じことをしてもつまらないのでトミー達に

よって初トラバースされたのとは反対側からやってみる計画を立てた。フィッツロイトラバースにはクライミングの持久力と言うよりは耐久力が求められる。小川山〜瑞牆で2泊3日100ピッチ以上の継続マルチなど激しいトレーニングを重ね、その耐久力という意味では過去最高の肉体と技術に仕上げ遠征に臨んだ。

結果は2座目の下降時、懸垂下降の失敗により私が大怪我を負い遠征は失敗に終わった。フィッツロイ山群の稜線上で大怪我の事故を起こし初めて救助された事例の様だ(この山群では基本ヘリ救助は無く、厳しい岩山なので救助が非常に困難である)。詳細はジャンボが「登山研修VOL.35」にまとめている。

### 事 故

2019年2月パタゴニアで大事故を起こした。

私には事故当時の記憶がないのだが、文字通り九死に一生を得るような状況だったようだ。パートナーのジャンボ(横山勝丘)をはじめ様々な方々の尽力で私は生かされた。パタゴニアで半分寝たきり状態の入院1カ月を終えて帰国。当初は復活する気満々で来年の夏にはウルタル行こうぜとジャンボを誘ってるようなバカだった。帰国翌日にはクライミングジム通いを始め数か月後には少しクライマー的な事ができるようになってきた。しかしある程度までの回復後は進展のない1年を経て、私は半分クライマーであることを諦めたのだと思う。いつまで経っても体の不具合は取れることなく、以前のような限界を攻めるようなトライは考えにくかった。こらえ性の無い私はそう思いこんでしまったのだ。

「終わったな……」

半分は悲しく。半分は少しホッとしている自分に気が付いていた。これからはのんびりとクライミングや山に付き合っていくことになるのだろう。自分のクライミングは止めるのかもしれない。どうやら山で死ぬことなく生涯を終えられる可能性も高くなったようだ。

目的もなくダラダラと生活を続けているとコロナ渦が始まりそれを言い訳に、更に覇気のない日々を送っていた。その頃の私はクライマーとして終わっているのではなく人間的に終わっていた。自殺を本気で考えるまでは至らなかったが、自殺のニュースを見ると「そういうのもあるよなあ」とスナリと理解してしまえる精神状態だった。何に対しても無気力で、鬱とか俺には関係ないと思っていたけど振り返ってみるとその傾向があっただろう。大袈裟に言うと廃人的な生活だった。

### 心の復活

何が切っ掛けですか?と聞かれても、都合の良い答えは出てこない。2021年、にわかに私のモチベーションは



上昇した。仕事の為富士山へ向う運転中、やりたい事を妄想しまくっている自分を見つけて

「俺は復活した」

と確信することができたのだ。御殿場で仲間と楽しくこれからの夢について話しまくった。体には色々不具合あるけれど、少なくとも心は復活した。今の自分にやれる範囲で良いから「本気でチャレンジしていきたい」と怪我後ようやく思えるようになったのだ。

### リフォームと瑞牆開拓プラン

夏に中古物件を買うことになり結果的にやるつもりがなかったリフォームと言うかりノベーションにも没頭した。ガイド仕事ももっと充実した良いものにしたいと感じて気合が入った。通常のガイディングとしてはあり得ないような瑞牆マルチ開拓プランを連続した。お客さんを巻き込んで未知のラインを探す楽しみを一緒に味わったのだ。開拓プランは既成ルートをガイドするのは段違いに大変だ。気を使うことも多く、常にグランドアップでの開拓なので何十本も木こり作業やブラッシングしながらのクライミングになり毎回のような相当体力を消耗しグッタリと疲労した。そんな仕事とリフォームの日々を送っていると自然に体は締まってきていつの間にかクライミング時のベスト付近まで体重も落ちていた。体のキレも良く割と体全体が好調だ。

そんなとき、仲間が瑞牆の「現人神(5.12b)」をトライしていることを知る。私のやりたいクラックリストの上位にあり続けたルートである。怪我以降とても取り付けないと思っていたが、「ちょっとやってみようかな?」とその気になってきた。

次号へ続く